



外国人介護スタッフ（手前）をサポートするメンバー。日本語上達の手助けや困りごとの相談などに乗る
＝O一ネット提供

介護施設の外国人スタッフ

スキルアップをサポート

O一ネット 悩み相談や日本語習得

**外
國
人
介
護
ス
タ
ッ
フ**

外国人介護スタッフの受け入れには、日本での介護

外国人介護スタッフ（手前）をサポートするメンバー。日本語上達の手助けや困りごとの相談などに乗る

＝O一ネット提供

NPO法人「介護保険市民オンブズマン機構大阪」（通称・O一ネット、大阪市北区）は、介護施設で働く外国人スタッフの日本語上達の手伝いや悩みの相談などに乗るサポート活動を始めた。働きやすい環境を整えることで、増加する外国人スタッフのスキルアップを助け、施設のサービスの質向上につなげたい考えだ。

今年の講座は11月に開催の予定。問い合わせはO一ネット（06・6949・8192）。【中川博史】

福祉士の資格取得を目的とした東南アジア3カ国とのEPA（経済連携協定）や技能実習など4種類の制度が設けられている。厚生労働省によると、団塊の世代が75歳以上になる2025年には約38万人の介護士不足が予想され、外国人スタッフへの依存はますます高まる見込みだが、意思疎通や異文化・習慣への配慮など、さまざまな課題も指摘されている。

O一ネットは、外国人スタッフを市民の立場で支援しようと21年11月、介護施設の施設長や行政の外国人借り上げ住宅での生活者が

支援担当者、日本語教師などを招き、困りごと相談への対応方法などを学ぶ集中講座を開催。日本語ボランティアや介護・医療の仕事に携わる人ら35人が参加した。

22年4月から14人がサポート活動をスタート。月1回、大阪市内や兵庫県宝塚市内など8カ所の介護施設で働く外国人スタッフ計20人を訪問したり、オンラインで面談したりしている。

今年の講座は11月に開催の予定。問い合わせはO一ネット（06・6949・8192）。【中川博史】

耳障りや母国での介護の仕方との違いにとまどう一などといった相談があると

耳障りや母国での介護の仕方との違いにとまどう一などといった相談があると

耳障りや母国での介護の仕方との違いにとまどう一などといった相談があると

耳障りや母国での介護の仕方との違いにとまどう一などといった相談があると